

第 6 回佐倉市地域福祉計画推進委員会 議事録

開催日時	令和元年 12 月 17 日（火）午後 1 時 30 分～3 時 15 分
開催場所	佐倉市役所社会福祉センター 3 階中会議室
出席者	石原 茂樹委員、宇田川 光三委員、内川 浩明委員、大久保 和夫委員、 小原 和夫委員、川根 紀夫委員、小林 眞智子委員、西廣 直子委員、 深沢 孝志委員
欠席者	なし
事務局	佐藤幸恵（福祉部長）、大谷誠一（社会福祉課長）、林田成広（社会福祉課管理班班長）、菅沼京子（社会福祉課地域福祉班班長）、福山聡昭（社会福祉課主査補）、杉山拓巳（社会福祉課主任主事）
議 題	1. 議事 （1）第 4 次佐倉市地域福祉計画の最終案について （2）その他
配布資料	資料 1 第 4 次佐倉市地域福祉計画の概要（案）（令和元年 12 月 17 日時点） 資料 2 第 4 次佐倉市地域福祉計画の基本理念・基本目標の概要（案） （令和元年 12 月 17 日時点） 資料 3 第 5 回推進委員会（10 月 3 日）後の主な変更点（11 月 14 日の第 2 回庁内検討会の意見・庁内の確認結果を含む） 資料 4 第 4 次佐倉市地域福祉計画の最終案（令和元年 12 月 17 日時点）
傍聴人	なし

〔 顛 末 〕

1. 開 会

今回の議事録確認者は、小林会長と石原委員の 2 名であることが確認された。

2. 議事

（1）第 4 次佐倉市地域福祉計画の最終案について

【資料 1】～【資料 4】に基づいて、事務局から説明を行った。

○意見、質疑等

【会長】

ありがとうございました。事務局から、最終案について、庁内検討会の意見も踏まえて、主な変更点をもとに、説明がありました。ご意見、ご質問などございますか。

※以降、ページ数のある資料は、【資料 4】第 4 次佐倉市地域福祉計画の最終案（令和元年 12 月 17 日時点）のページ数。

【委員】

大変な努力の跡がみられて、ありがとうございます。

いくつか気になる点だけ、改めて、最終なので確認しようと思う。

文言の関係だが、1ページの真ん中ぐらいに、「互いに支え合う地域」、「ふれあい・交流のある地域」、「一人ひとりを認め合える地域」という3つのフレーズが登場するが、計画の中でこの順番が入れ替わったりしている。どの順番でいくというのは決めなくていいのか。

【事務局】

統一を図りたい。

【委員】

14ページの「地域福祉活動の参加促進（災害時の助け合い）」という下の枠の中に、「地区社協に入る」と書いてある。当然、これは地域福祉活動の参加促進なので、これでいいのかもしれないが、自治会は触れておいたほうがいいのではないか（「自治会に入る」というのはなくていいか）。自治会関係者が見ると…。これは地域福祉活動だから、自治会ではないと言うかどうか。

【事務局】

そもそも「地区社協に入る」が引っ掛かりのある言葉というのが前提にある。それも含めて、自治会にも加入するということを書いたほうがいいのかどうかということは、事務局の中でも議論しているところ。もう一度検討し直したい（←事務局に任せる）。

【委員】

先ほどの3つのフレーズ、1ページと順番が異なる。

【事務局】

補足させていただくと、1ページ目の順番は3次計画のままだが、改めて、4次計画の基本理念のサブタイトルに入れるときに、「一人ひとりを認め合える地域」が先ではないかということで順番を変えた。3次計画を踏まえた記載の部分は3次計画のままにしているが、不一致になってしまう。4次計画では、一人ひとりを認め合ったうえで、互いに支え合う、交流のある地域という順番のほうがいいのかということにさせていただいている。統一は図りたいと思う。

【委員】

どれが一番いいのだろうと思っている。

35ページの2段落目、「基本目標4「住民参加をさらに促進し、充実します」にある住民の自発的な取組…があります」となっている（「ある」が重複）。「にある」は、「は」など他の言葉でいいのではないか。

あとは、確認しておきたいという事項で、21ページ（下から3行目以降）、「「互助・共助」が中心的な役割を果たし、住民、地域と行政が一体となることで、地域共生社会の実現に資するといえます」という結びになっているので、22ページ上の【図】は3次計画がベースになっている。ここは変えるのか、変えないのか。

【事務局】

確かに、国の資料を読む中で、自助、公助などの枠組みを考え直したほうがいいのではないかという考えが出ているが、4次計画では3次計画の継続性という点から、また、次期の佐倉市総合計画にも、同じ「【図】自助、互助・共助、公助のイメージ」を入れさせていただいているので、活かしたいというのが今の案。

【委員】

その場合、この文章と図の関係の説明はしなくていいのか気になったので、確認だけした。

26ページの真ん中より少し下、「国の動きを注視し…」と書かれていて、国の地域共生社会推進検討会のことだと思うが、12月10日に最終とりまとめ（案）が出て、3つの柱が出て、あれはもう変わらない。4次計画が発行されるのは3月。「年内を目途に最終とりまとめを行う予定としています」となっているが、いいのか。

【事務局】

委員がおっしゃるように、12月10日に検討会で最終とりまとめ（案）が出たので、表現を変えるつもりでいる。

【委員】

36ページ、「○（参考）自治会等加入世帯数・加入率の推移」のところの説明で、高齢化や世帯分離等があって、世帯数の増加が進んでいます、となっている。世帯分離は世帯数が増加するのは分かるが、高齢化は？

【事務局】

原因と結果が合っていない。単身世帯が増えているということが言いたい中で、高齢化と世帯数の増加は必ずしもイコールにならないので、表現を修正する方向で検討したい。

【委員】

同じところで、「自治会等の加入世帯数は実際には微増しています」となると、世帯分離した世帯は、2世帯で自治会等に入っているのかと思ってしまうかなど。これはこれでいいのか、確認をしようと思った。

【事務局】

原因と結果が合っていなかったのと、自治会等の加入世帯数が増加しているのは単身世帯数が増加していることで、結果として増加していることだと思うが、そのあたりの表現は検討させていただければと思う。

【委員】

40ページの「赤い羽根の共同募金について」の中で、「約7割を市社協の事業…」となっているが、市社協は配分するだけか（市社協が配分委員会を作って、配分する？）。市社協の事業に共同募金の7割を使うのか。そうすると、自分のところで集めて、自分のところで使っているということになってしまうので、この表現でいいのかが気になった。

【委員】

記載のとおり、現実にはそう。赤い羽根共同募金では配分委員会を作っていないので、直接。

【事務局】

ここは市社協のホームページから引用させてもらっている部分。

【事務局】

全て市社協という捉えられ方の表現を避けるのであれば、「約7割をボランティア活動や地区社協等を含んだ市社協の事業」と表現を変えるのはどうか。

【委員】

赤い羽根共同募金については、県の共同募金会から佐倉市社協が配分を受けているような位置づけになる。社協活動でしっかりと使っているという表現で間違いはないが、事務局の言うほうが、いいかもしれない。

【事務局】

初めに具体例を入れて、市社協の事業としたほうが。

【委員】

集めるのは共同募金会？

【委員】

そうです。集めるのは県の共同募金会の佐倉市支会で、それを県の共同募金会に送って、約7割を佐倉市社協が配分を受けるというかたち。

【委員】

集めるところと配るところがごっちゃになっている。

【会長】

この部分は事務局と社協で調整を。ホームページに載っているものであれば。

【委員】

11ページの上、先ほどの自治会等の加入世帯数と同じような話だが、ボランティア団体数は高齢化などの理由に減っているが、個人ボランティア数は増えている。個人ボランティアの高齢化はなくて、ボランティア団体だけが高齢化？高齢化が原因で減っているというのは、どういう風に理解したらいいか。

高齢化すると、みんなで一緒にやるのは大変だから嫌だ。1人でやるのはいい。

【委員】

現実。ボランティア団体は、構成員が高齢化してしまっていて、維持できなくなってしまう。維持できなくなったが、その中でも、まだ元気な人は個人ボランティアというかたちで活動している方はいる。

【委員】

団体のほうが高齢化で、まだ活躍できる人は個人ボランティアになってしまう。団体を維持するほうに、その活躍できる人が移動しないで頑張ればいいのかのらうけど。

【委員】

新しく若い構成員がいない。団体が高齢化して、ボランティアを辞めたあとに続くところがない。グループ自体が維持できない。

【委員】

団体がなくなると個人に移行するし、高齢化した人は抜けるから、数は減ってきている。全体の数は減る。

【委員】

14ページ、先ほど委員が言われたことに関連するが、「地域福祉活動の参加促進（災害時の助け合い）」が入っていて、3行目に、「ご近所に声かけする、地区社協（…）に入る」がよく分からない。むしろ削除してしまって、「一人ひとりができることから始める」「そして、地域福祉活動に携わることで…」でいいのではないかという気がする。これを入れてしまうと、「第4章の基本目標3…」のカッコが入り、分かりづらい。

38ページ、地区社会福祉協議会の「③活動内容」のところに、いろいろ書かれて

いるが、最初に、「○支えあい活動」を入れなくていいのか。今、地区社協がメインにしているのは、支えあい活動。先ほど、ページ下の「支えあいサービス事業」の中で、支えあいサービスを行っているのが、11地区社協から12地区社協になったと説明があったが、それをトップに持ってきたほうがいいのではないか。「○在宅福祉活動」の前。

逆に聞きたいのが、47ページの「5 計画の進行管理」。数値の出し方で、【基本目標4】の指標について、前回の資料の中では、現状値が65.5%で、目標値を70%で出していたと思うが、進行管理の一番大事な数値のところだと思うので、変化の説明をしてもらえれば（先ほど説明を聞き逃してしまった）。

【事務局】

【基本目標4】の指標については、16ページに3次計画の指標を、設問1から4を設定しているが、前は設問3の【住民同士の気づかい】を指標にしていた。下のグラフを見てもらうと、数値自体は設問3のほうが高く、現状値（R1。「思う」と「どちらかというと思う」を足すと）が65.5%だった。基本目標4の住民参加を促進した結果が、住民同士の気づかいというのは指標としてそもそも適切ではないのではないかという意見が庁内検討会で出たので、設問4の【住民同士の交流】のほうに、指標自体を変更した。そうすると、設問4の現状値（R1）は53.5%になるので、現状値も変わり、現状値が低いほうの指標になるので、目標値も60%になった。

【委員】

住民同士の交流やふれあいというのに絞って、この現状値を出した。了解した。

【会長】

14ページの「地域福祉活動の促進（災害時の助け合い）」のところの文章、他の委員からも意見があったが、「地区社協（…）に入る」という表現。

【事務局】

そこに関しては、削除を含めて整理したいと思う。

【会長】

最終案だが、1人1人から気づいたことやここはよかったなどでもいいので、言ってもらえればと思う。

【委員】

ご苦労様でした。大変だったと思う。45ページに、「佐倉市ボランティア連絡協議会」（V連）を入れてもらった。なかなかボランティアの部分でV連、いろいろなところで頑張ってきているが、なかなか文章に載っていない。市と社協の活動にはそ

れなりに頑張ってきているところなので、載ってありがたいなと思う。ありがとうございました。

【委員】

ボランティア団体や民生委員、社会福祉法人の組織の部分でやっていて、横串で見ると、活動内容は学習支援や子ども食堂などをやり始めている。表現として、10ページの「(2) ボランティア活動」の中に、それも触れていただいたほうがいいのではないかと。11ページの「(3) 民生委員・児童委員活動」、12ページの「(4) 社会福祉法人などの役割」の中には出ていて、32、33ページにも実際の活動が出ている。その中で、「ボランティア団体」がある。整合を取っていただければ。

36ページ、表現として気になったのが、「～自治会等～」の2行目、「…の関係であると認識します」とある。かなり上から目線のように感じる。例えば、「大事に考えております」などがいいのではないかと。

27ページに、「○佐倉市家庭等における虐待・暴力対策ネットワークによる連携」があるが、ネットワークの媒体、仕組みだけを連携しても、実際に役割など難しい部分はあると思うが、情報を入手して伝達し、フォローして、バックアップするという1つのサイクルがあると思う。そういう意識はこの中では表現されないのか。単にネットワークの媒体があるので、活用してくださいと行政側として言うだけで、実はそうではなくて、他の関連団体だったり、他のところに情報を提供したりしないと、せっかくそういう情報があっても動かない。守秘義務などかなり考えないといけない部分があるので、そういう情報は大事にしないといけない。まだ実際に固まっていないので、難しい話だと思うが、どうするのか、少しでも触れるのか。今、注目されているので、取組が関心事ではないかと感じている。

この前に話をさせてもらったが、行政として何をするのかと言えば、「…の支援」だろう。実際に主体になるのは市ではない。例えば、取組の項目として、○○会、○○協議会などがあるが、それだけではなく、市は「…の支援」に回ると思う。同じようなものが随所にある。気になったので、表現してもらえればと思う。

【事務局】

修正できそうなところは、できるかぎり修正したいと思う。

【委員】

子ども食堂はボランティア登録をしているのか。それとも、個人のボランティア登録か。

【委員】

両方ある。

【委員】

ボランティア登録をしている子ども食堂もあるし、ボランティア登録していないところもある。

【委員】

資料2（A3）で、基本目標1から3の説明の中で、「取り組み」を「取組」にしているが、「主な取り組み」が修正されていない（←修正漏れ）。

71ページ、表の年度のところで、「平成30」と「平成31」の数字が縦になっているのは横にしたほうがいいと思う（算用数字が縦書き）。

64ページなど、何ページかにわたって写真が出ていて、顔が出ているが、顔を出すのはOKなのか（←出して大丈夫という写真だけ載せている）。心配だった。

立派なものをみていると曖昧になってきてしまうが、8ページ、読んでいるうちに、そもそも「地域」とは何かが分からなくなった。「第2章 地域の現状」とあるが、「地域」の中に、ここで謳われているのは地域福祉の担い手として、ボランティア団体など、自主的な活動、イメージとしてはみんなで公助、共助を大事にしていこう、自主的に動く住民、理想的な住民というイメージは分かるが、「地域」という中に、抜けているものがあるというのが分からなくなってしまった。例えば、担い手の中で、学校、会社やPTAなどで行われているボランティアはボランティアではないのか。暮らしている住民は、様々な背景を持っているが、ボランティア活動ができる、余暇活動的にやっている人もいるかもしれないし、休みを取ってやっている人かもしれないし、仕事の中でボランティア活動をやっている人もいるかもしれないし、そのあたりで、仕事、無償ではないボランティアの活動が抜けているところは、「地域」福祉の中には入らないのかが分からなくなってしまった。

【事務局】

確かに、10ページのボランティア活動の記載がそこまで深く記載できていない。以前にも、委員からあった、「地域」とは何かという話があり、仕事をしているなど様々なバックボーンがあり、住んでいる場所も異なるが、「地域」としては佐倉市という地域。

【委員】

生活者みたいと思っていいか。

【事務局】

居住者。基本的には、佐倉市という区域に住んで、生活している人。有償ボランティアや無償ボランティアもあり、検討の中で、記載できる範囲で記載できればと思っていたが、現状は、10ページの記載で整理させていただければと思う。

【委員】

中止になった地域福祉フォーラムで、高校生の発表が予定されていたが、少しでもコラムなどであるといいかなと思った（←残念だった）。

【事務局】

せっかく高校生が頑張ってくれていて、活躍の場は佐倉市内に限らないと思う。「地域」福祉は何かと考えたときに、「地域」が何かを考えることは大事だと思う。

【委員】

高齢化で担い手が少なくなってくる中で、子どもたちを誘い込むということで、学校の中でのボランティア活動は重要になってくると思うので、入っているといいかなと思った。

【委員】

この計画、細部まで配慮されたよくできた計画のように思うが、私が一番注目したのは4ページ、この計画の総合計画、個別計画、地域福祉計画との関連がこの図で明快に出ている。佐倉市地域福祉計画は、行政と民間、諸団体、関係団体などを含めたかたちでの福祉計画、これをもって、地域福祉計画というかたちで認識した。3次計画における住民参加の促進に焦点をあてた計画にする、個別計画とは重複しないようにする、そこから大きく方向転換して、地域の福祉計画全体について考えていこう、それを市内の連携の強化であるとか、関係団体との連携とか、そういうかたちで、3次計画の後期以降、福祉部が非常に積極的に取り組んできたことではないかと思う。

その結果、住民との関係がどうかというと、佐倉市に住んで、佐倉市の福祉計画、福祉行政、関連の事業などについて、満足度がどの程度なのかというのが最も重要な指標になってくるのではないのかなと思う。関係団体についての支援と言うが、あくまでも一体となって、佐倉市全体を住みやすく、支え合う、共生社会を作っていきましょうというかたちが、総合計画、個別計画、地域福祉計画との整合性が出てきたと、とても喜んでいて。ただ、今、話を伺っているかぎりにおいては、どうも3次計画の住民参加に重点を置いたかたちで動いているのがより強いのではないかと。個別計画を細かく説明するというではないが、その点をもう少しはっきりと方向づけができると、地域福祉計画が何であるのかというのが、皆さんによく分かっていただけではないかというような気がした。

例えば、3次計画の成果指標で、誰でもそうだと答えるような設問があったと思うが、そうではなくて、むしろ、佐倉市に住んで、満足度がどうであるとか、福祉政策はどうであるか、もう少し深掘りしたような設問に切り替えていったほうがいいのかなど。私、個人の考えだと、佐倉市に転居してきてまもなく4年になる。ものすごくいい街だなと思っている。私の満足度、高齢者の単身世帯の、生活の満足からすると、もう満点に近い状態で、何の不自由もない。八千代市の図書館でみたが、八千代市で

は市民の満足度調査というものをやっている。他よりもよければ、市民の方たちは、佐倉市っていいね、あそこいいから住もうよ、そういうような意識が働くのではないかと。佐倉市の内部を詳細にわたってやっても、全体的に佐倉市のレベルが他に比べていいのか悪いのか、ちょっといいといい気持ちになってしまうというのもあるのではないかというような気がして、この計画のポジションは私の理解と違っているのかということをお聞かせいただければありがたい。

【事務局】

確かに、満足度の調査というのは、市としても行っている部分もあるので、重要な指標の1つになるかと思う。委員がおっしゃるように、住民の参加が、ある程度、地域福祉の重点、大きな1つの柱になるので、そういったところについても、地域福祉計画は何だろうというところに、私たちが認識を持って、進めていきたいとは思っている。

【委員】

住民の参加が重要というのはあるが、重要な点の1つの柱である、それが唯一ではないし、柱が何本か、個別計画であるとか、動向を含めて、全体的に融合したかたちで佐倉市の福祉計画というものが出てくると思う。それがイメージとして出てくるのではないか。

【事務局】

おっしゃるとおり。3次計画から4次計画に変遷したところ。

【委員】

3次計画から4次計画で印象が違う。とても変わって、ずいぶん市内の連携であるとか、動向というかたちについて、配慮しているなという印象を強く受けていた。

【委員】

先ほど、聞き逃してしまったが、35ページの「基本目標3 地域の社会福祉を目的とする事業の活性化を推進します」を「…支援します」に変えるとは言っていない。この目標の中の、「○民生委員・児童委員活動の支援」は「の支援」を追加している（39ページ）。そういうことだとか、それ以外の団体も、直接、市がやるのではなくて、協働でやっていくのだが、主体的にやるのは団体。そういうところを「推進する」という言い方よりも、「支援する」という言い方のほうがいいのかなと思った。検討してもらいたい。

それ以外に、本当に、黄色の部分、前回の資料と読み比べてみて、私たちが議論した以上によく検討してくれている。よくできている。感心した。いろいろなご苦労をされたと思う。特に、基本理念が気に入った。これは市内で検討した結果か？これはいい。分かりやすい。

もう1つ、地域福祉計画と地域福祉活動計画、あえて社協のことを取り入れてくれているということは、福祉をやっていくうえで、社協も頑張りなさいよと、両輪なのだが、それに応えて、社協のやることも応援してもらおうと。そういう関係で、社協のことをずいぶん触れたのかなと思った。

【委員】

他の委員がおっしゃったように、この委員の立場とすれば、市が直接行うというよりも、関係団体や住民を巻き込んで、あるいは、既存組織を支援していく中で、活性化していこうという計画だと捉えているので、そういう色合いが出ていた方がいいのかなと。35ページなども、委員がおっしゃったように、各団体への「支援」というように、分かりやすく伝えていただいたほうが、いい気がする。また、委員がおっしゃっていたように、3次計画から4次計画で相当な変化を感じている。一番感じたのは、3次計画のときは、かなり理念的なものだったが、4次計画になってかなり具体化し、具体性に富んだものになって、専門的な用語、専門的な支援すべき活動も謳ってあり、分かりやすくなってきた反面、別の委員がおっしゃったように、いろいろな方がここに参加するという意味合いが少し遠のいているのかなと。

先日、社協が委託を受けて行っている、障害について学ぶ市民講座という事業の中でシンポジウムを行ったが、毎年、様々な工夫を行い、様々な障害を持っている方の実情とか、支援プロセスや支援の仕方を市民の方に知っていただくとしているが、細かく説明していけばいくほど、実際は、何でもやりたいが、何をやらいいかわからないという人から遠ざかってしまっている傾向が少しみえて、最後に、市民の方から、一般人のボランティアは結局何をしたいのか分からないというように言われてしまった。その部分は、社協としても課題だと思っている。

目の前の達成度を高めるためには、この計画のように、既存の団体などと有機的に連携をみえるようにしていくのは大事だが、もっともっと大枠になる、数多の市民を巻き込むという意識を同時に持っていないと、小さいまとまりで終わってしまうのではないのかなと感じたので、この計画自体の内容ではなく、そのあたりの意識を常に持ちながら、ワンチーム、オール佐倉ではないが、そのようにしていけるような実行をしていきたいなど改めて感じたところ。

【委員】

細かいところで、何点かあり、イラストがいたるところで同じようなものをみるが、大丈夫なのか。著作権などの確認（←フリーイラストで、国も使っている、皆さんよくみていると思う）。

28、29ページの表だが、左の始まりを揃えてもらったほうがいいと思う。同じように、51から54ページ、行の真ん中から始まるものを合わせたほうがいいのかな。「(1) 拠点（集まれる場所）の持つ効果」など、あえてやっていると思うが。あと、細かい点で、気づいているかもしれないが、51ページ、(2) 調査対象の(2)

が左に飛び出てしまっているなど、少しずれているところがある。

最後に、自分の感想だけ一言。地域包括ケアシステムは介護保険で始まっていると思うが、先ほども12月10日の厚生労働省の地域共生社会推進検討会の最終とりまとめ（案）に出ている内容がほとんど網羅されている（断らない相談支援。参加支援。地域づくりに向けた支援）。断らない相談支援については、相談機関の内容を含めた周知・啓発が最初のころ出ていたと思うが、更なる充実を期待するというのが1つ。あと、地域包括ケアシステムをみていると、地域性に相当差があり、未だに行政や公的機関にやってもらえるという認識でいる、佐倉市の中ではすごい地域差があると思う。その地域差というか、将来をどう進めていくか、どういう地域を創っていくかという指標や目安になる地域福祉計画になっていると考えるので、これを広く市民の方に知っていただいて、将来のまちづくりの1つにしていただければと思う。

基本的に高齢者をみていると、訪問診療も含めて。私は自己完結型地域と言っている。その足りないところを補うという話をさせてもらうが、お金の関係と、先ほどの高齢化の関係と、やる人がいないということで、なかなか二の足を踏んでいる人がほとんど。そこをどう補って作っていくかというのが課題になると思うので、その1つのアイテムになるように期待して、感想とさせていただく。どうもお疲れさまでした。

【会長】

ありがとうございました。皆さんから一通りご意見をいただき、毎回、推進委員会ではいろいろなご意見をいただいて、その意見を事務局のほうで検討されて、庁内検討会をされて、本当にどんどんよくなってきまして、皆さんからも素晴らしいというような声をいただき、ありがとうございました。

この推進委員会については、今日意見が出たものについても、再度、事務局で検討していただけるということなので、よろしく願いいたします。この件については、もうよろしいか。

【委員】

47ページに計画の進行管理があり、16ページに市民意識調査の設問がある。市民意識調査の設問をみていると、平成30年度が少し落ち込んだが、令和元年度は持ち直して上がっている（←これは、令和元年度から、「どちらともいえない（わからない）」の選択肢を削除した影響があると思われる）。意識としては嬉しいなという意識だと思うが、この意識を単に意識にするだけでなく、例えば、社協などの関係団体の代表者のコメントをもらうというのはできないのか。そういう人が、この意識というのはどう評価するのか。何を言いたいのかと言うと、47ページが単にこの意識だけではなく、変化してきている、その変化が、関係している人たちによって、こういうコメントがありますというのを載せたら、市としては市民意識調査の意義が増すのではないかと。他の委員がおっしゃった、満足度。佐倉市に住んで満足しているという意識が、少しは見えるかなと。47ページがもったいない。目標値と言っても、

みる人からみたら、何？という話になると思う。やはり、魅力だとか、インパクトの部分で、コメントがあるかないかで、だいぶ違うと思う。行政側のほうのコメントではなく、違うところからの視点で、意見を少しは載せてはいかがかなと思っている。

【委員】

ちょっと難しいと思う。

【会長】

事務局のほうで考慮して、ご検討いただければと思う。いろいろなご意見ありがとうございました。議事（1）については、終了したいと思う。議事（2）に移りまして、「その他」について事務局から説明をお願いします。

(2) その他

【事務局】

(2) その他については、特にない。

【委員】

お願いがある。私もこの委員会でお話をさせていただき、いろいろな知識もここでいただいているが、私自身が障害者団体の連絡会の会長もやりながら、V連にもいるという特殊な感じ。他のいろいろなところにも顔を出しているが、是非、住民というところでも、高齢者の方、施設の方、民生委員の方といらっしゃるが、ここに当事者として、障害を持っている誰かを出していただくことがいいのかなど。障害を持っているからといって、受け手であるだけではないはず。地域では受け手になったり、担い手になったりということも考えていかなければならない。障害だからどうのということではなく、障害者でもできる地域づくり、お話もできたりする。今回、包括支援や相談支援という事業所ができてはいるが、受ける側の議論がどこにもない。相談が受けやすいのか、どうなのか、どういう問題があるのかというのを出せる場所がどこにもないということもあるので、是非、そのあたりは、今期が終わって、次期のところで、皆さんに考えていただければと思う。

【会長】

ありがとうございます。実際に、高齢者の方だったり、障害者の当事者の方も、この推進委員会の中でいろいろな意見が出たらいいのではないかとご意見がありました。よろしく願いいたします。その他、関係ないことでもいいが、4次計画以外でも、全体を通して何かあればお願いしたいと思う。

【委員】

障害者の団体で、この計画案を是非みたいという話があるが、出来上がる前に他の人にみせてもいいのか。

【事務局】

案の段階で、資料をホームページに掲載しているので、この委員会が終わり、毎回、ホームページに掲載する。

【会長】

この4次計画が3月の次の推進委員会のときは決定されて、報告されるというかたちで上がってくるが、配布されるのはいつになるか。

【事務局】

印刷製本があるので、製本されたものが次回の推進委員会に間に合うのが理想だが、間に合わない可能性も高いので、出来次第、皆さんには配布させていただきたく。

【会長】

どうかたちで配布されるか。一般の方がいただけるような。

【事務局】

それも検討したいと思う。ある程度部数は用意して考えたいと思う。委員の皆さんにはこの後、政策調整会議が終わった後に、パブリックコメント（市民意見公募）にかけるときの段階の直前になるが、どうかたちでと、情報提供させていただければと思っている。

【会長】

4次計画がいいものとしてできても、推進すること、出来上がって終わりではないので、それからが大変だと思うが、よろしくお願ひしたいと思う。他にご意見、ご質問はないか。

【委員】

一応、本編が終わったので、先ほど出ていた、「地域」とは何か、「地域」福祉になるともって分からない。この委員会は研究所ではなく、研究報告でもない、すごく実践的な場なので、曖昧なことがいっぱいあっていいと思う。「地域」は、市役所からみたら佐倉市内というだろうし、私からすると、隣近所、他の委員からすると、障害者の仲間達の範囲と、いろいろな「地域」の捉え方があっていいという前提に立っているということかなど。福祉、障害のある人は障害福祉に関心があるだろうし、高齢者は年金に関心があるだろうし、隣近所に関心のある地区社協の福祉委員さんもあるだろうし、様々な切り口があって、いろいろな切り口を用意してあるから、みんな

が参加できるというような理解で、曖昧にしているというスタンスを取れたら、そのほうがいいのかという気がする。最近、いろいろ細かくなってきたので、いろいろな問い合わせが出てくるかもしれない。細かいところで、いろいろな切り口で参加する。そういう意味合いで、すごく曖昧だけど、曖昧の良さがあるというところに、この委員会としては落ち着いていたらいいかなと思った。

【委員】

確か、国の策定ガイドラインで、地域全体で地域共生社会を築いていく、包括的支援体制を整えていくというようなかたちで、この地域福祉計画を位置づけていると思う。それに従って、4次計画は作っておられるはず。曖昧ではなくて、割合ははっきりしているのではないかという認識を持っているが、どうなのか。

【事務局】

他の委員がおっしゃった、「地域」って何だろう、例えば、どこにお住まいですかと聞かれたら、それは「日本です」、「佐倉市です」、「中志津です」と答える人もいるかもしれない。そういう意味合いで、それぞれいろいろなバックボーンがあるということを前提に置いておいて、制度として、地域、圏域の設定とよく言うが、包括的な相談窓口をどういった圏域で作ろうか考えるときには、佐倉市で、地区社協の地域ごとにするか（14地区）、地域包括支援センターがある5地域にするか、そういった圏域の問題を考えるときには、行政的な考え方だが、佐倉市としての圏域の中で、どういった圏域に分けていくかという議論になっていくと思う。

【委員】

そういう地域の概念規定になるのか。

【事務局】

制度的な「地域」という捉え方と人それぞれ住んでいらっしゃる場所の感覚としての「地域」の捉え方というのは、主人公は人なので、その人の気持ち、感覚というものも大事にしていけないといけないと思う。

【委員】

これは、地域福祉計画における「地域」という概念は、どういうことか。

【事務局】

あくまでも、他の委員がおっしゃったように、行政としての計画であるので、佐倉市の地域としての計画ということになる。

【委員】

国の策定ガイドラインの中で、割合ははっきりと行政における施策と社協を始めとする各団体、市民との活動と連携したかたちで、相対的に地域共生社会を作っていくというポジションを取っているのではないかと思ったが、間違っているか？

【事務局】

それで問題ない。今後は、1市町村では解決できないような問題は広域連携という考え方も出てくると思うので、「地域」の考え方はこれから現実に出てくると思う。

【委員】

国の策定ガイドラインは努力義務だから、必ずしもそれをどうこうということではない。

【委員】

国の策定ガイドラインは、自治体の仕事として、地域共生社会に取り組むようにというのが国の方針だと思う。互助・共助、この水準をどう上げるかというところに国は視点を置いているので、枠組みを出してきている。しかし、具体的に、佐倉市でどうしていくのかとなれば、隣の家のおばあちゃんのゴミ出しをどうするのかとか、細かなことは山ほどあって、その細かなことを地域共生社会の1つ1つ取組としてピックアップしていくという作業があって、これら相対が地域福祉ですという言い方になってくるのだと思う。

その具体的な現場というのが佐倉市という範囲にあって、この現場の中に、実はいろいろな人たちがいて、いろいろな受け止め方をする、どれも排除しない、どれも参加できるようにするというのが1つの柱だし、施策としては先ほど言っていたように、具体的な制度設計をされる柱が用意されている、個別計画というところだと思う。個別計画に反映しない、狭間という言い方になっていたと思うが、狭間の問題と、もう1つはみんなが参加できるという、この3つの柱が、ここでは謳っているのだと思う。

【委員】

住民の参加の切り口の1つとして、今年、災害が起きて、台風、大雨と、佐倉も災害ボランティアセンターを立ち上げて、いろいろな方に参加いただいた。その中で、10月26日に立ち上げて、11月13日まで短い期間だったけれども、毎日毎日発見の連続だった。被災した数が限定的だったので、佐倉市民に限定をして募集をかけた。皆さんマナーよく、8割以上が佐倉市民だったが、私が受付にいても、今まで会ったことがない人ばかり。年代も、性別も、どんな仕事をしているか、どういう生活をしているかも、初めて触れる人たちばかりだった。驚いた。これだけ地区社協の皆さんや民生委員の方々、自治会の方々、ボランティアの方々、何千人とお付き合いしている中で、初めて会った人ばかりだった。

その中に、手伝いたいけど、私には障害があるができるか、という人が来た。グル

ーピングしたときに、事情をグループの方に伝えたら、もちろんだよとなり、やってもらった。1日作業して帰ってきたあと、みんな仲良く交流していた。

また、すごく戦力になったのは、大学生。10数名で来て、そこの土砂を一気に片づけてくれた。それから第三工業団地にある会社が、10数人企業として参加して下さった。子どもたちだったり、障害を持っている人たちだったり、企業の立場で来たり、県内の消防署に勤めている方たちが、佐倉社協消防ボランティアの会というものを立ち上げてくれて、台風15号で屋根がめくれてしまった家のブルーシートかけを、ボランティアで屋根に登ってやってくれた。屋根は一般ボランティアではできない。

その全てが、私がほとんど初めて会う人だった。もちろん災害はないほうがいいに決まっているのだが、切り口、語弊はあるが、いろいろな切り口がある中で、こういった切り口で初顔の人にこれだけ会えた。いろいろなカテゴリーの方が1つの目標に向かって活動したというのは、1つの財産だったような気がする。地域福祉や地域を1つにする切り口をどういうものにしていくべきかというのは、ものすごく大事だし、大切にみんなで考えていくべきだろうと思う。いろいろな人が参加できて、初めて地域福祉。この4次計画は、先ほど言ったように、かなり具体化していて、ともすると、全くまっさらな人にはとっつきづらいかもかもしれないが、そこを、社協を含めて、関係団体、支援を受ける団体がもう少し柔らかく住民に説明をして、きっかけづくりをしていくことで、さらに、この計画が大きく成長するのではないかなと感じた。

【会長】

ありがとうございました。台風15号のとき、うちの団地も屋根の瓦が飛んでしまったが、災害ボランティアで来てくださり、ブルーシートをかけてくださって、瓦屋は来てくれないけど、応急処置したから、半年ぐらいは大丈夫だよと言ってくださった。本当に嬉しかったと、佐倉市民でよかったと涙を流していた人がいたので、満足度100%ではなかったかと思うが、制度ボランティアでない方で、それだけたくさんの方が来てくれたということは、よかったと思います。いろいろなご意見ありがとうございました。

【事務局】

本日まで、毎回貴重なご意見をありがとうございました。意見を織り込めるところと織り込めないところがあると思うが、特に言われているのが、地域福祉計画は出来上がった計画そのものではなく、こういった皆さんに話し合っただくプロセスのほうが大事と言われているので、皆さんに的確なご意見をいただけたことを、大変ありがたく思っています。ありがとうございました。

3. 閉 会